

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (265)

訳文のむずかしさ

喫茶店でタモツ君のおばあさんがタカコさんと話しています。タカコさんは、おばあさんが教師をしていたときの教え子の一人で、今は、中学校の国語の先生をしています。

「先日は、お電話をありがとう。お元気そうでなによりでした。」

「いつもご無沙汰なのに、困ることがあるとお尋ねして、ごめんなさい。」

「いいえ、うれしいことです。連れに話したら、英文の直訳だろうって言うので、インターネットで英文を見たら、そのとおりなの。訳文では、主語と述語が離れてしまっているし、関係代名詞を使った表現が連体修飾語になっているから、わかりにくいのですね。」

「連体修飾語ですか。」

「そう。“Persons with disabilities include those who”「障害者には次の者を含む」と言っておいて、その「含む次の者」がものすごく長い修飾語で修飾限定されているの。」

『障害者の権利に関する条約』 第一条 目的 後半部分 (英文)

Persons with disabilities include those who have long-term physical, mental, intellectual or sensory impairments which in interaction with various barriers may hinder their full and effective participation in society on an equal basis with others.

主語

(和訳: 障害者には)

述語

(和訳: ~を含む)

関係代名詞

和訳: ~を有する

和訳: 妨げ得る

『CONVENTION ON THE RIGHTS OF PERSONS WITH DISABILITIES』: 外務省ホームページ
(http://www.mofa.go.jp/mofaj/fp/hr_ha/pag_e22_000900.html) より引用・加工

those who が関係代名詞になっていて、have 以下が those who を説明する修飾語となっているのですね。網掛けの範囲をひとつの文章として考えると理解しやすいですね。

